



優 秀 賞

取組名:「ヒト」と「モノ」が災害支援に繋がる
ネットワークづくり



取組団体

社会福祉法人小山市
社会福祉協議会 /
とちぎボランティア団体
YAMBE(ヤンベ) /
白鷗大学サークル「め組白鷗」 /
ゆめ評定



活動の写真

取組の概要

- ◆「おやま防災」を本協働チームで運営しています。月1回のミーティングを開催するなど平時から連携しています。
- ◆隊員登録している個人・団体・企業と良好な関係を構築するために平時から定期的な情報発信を行うとともに講座参加を促しています。

取組の成果

- ◆平時から関係を作り、実際の災害で活動できました。
- ◆年齢や生活スタイルの異なる多様な主体により構成されるチームであるため、一般市民が参加しやすい雰囲気を作ることができました。

活動の展望

- ◆イベント等を通し「おやま防災」、「Stock Yard OYAMA」を周知し、隊員を増やすこと、防災講座により隊員を成長させること、組織体制を強化し災害時に迅速に動けるようにすることを通して、活動の認知度、参加率を上げていきます。

受賞のポイント

- ◆多様な主体が互いの強みをいかして平時から協働している点が評価されました。

輝く“とちぎ”づくり表彰制度

【表彰の対象となる取組】

- 次に掲げる要件を全て満たす取組であること
 - ①栃木県内に拠点を有するNPO等が主体となった取組であること
 - ②栃木県内で現在継続中の取組であること
 - ③行政機関からの委託による取組でないこと
 ※令和4年度から、協働による取組に加えて、NPO等が単独で行う社会貢献活動も表彰の対象としました。



【評価項目】

創意性、成果、発展性、波及性、連携度（協働の取組の場合）の観点から総合的に評価

【応募方法】

自薦又は他薦

【問合せ】

栃木県生活文化スポーツ部県民協働推進課協働・多文化共生室
〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田 1-1-20 本館7階
電話：028-623-3422 FAX：028-623-2121
MAIL：kyodo@pref.tochigi.lg.jp



詳細はホームページを
御覧ください。

令和5(2023)年度
第7回

輝く“とちぎ”づくり表彰



みんなで創る、未来のとちぎ

表彰事例の紹介

栃木県では、NPO・ボランティア団体等が地域課題の解決に向けて行う優れた社会貢献活動を「輝く“とちぎ”づくり表彰（栃木県知事表彰）」として表彰しています。

第7回目となる令和5（2023）年度は、最優秀賞1取組10団体、優秀賞3取組7団体を表彰しました。



令和5(2023)年度輝く“とちぎ”づくり表彰 表彰式
〔令和5(2023)年11月8日栃木県庁東館4階講堂にて〕



最優秀賞

取組名: 地域の子どもに家庭でも
学校でもない第三の居場所を

1 貧困をなくそう	2 気候をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

取組団体

宮っこ支援センター SAKURa/
アストラゼネカ株式会社・認定
特定非営利活動法人全国こども
食堂支援センター・むすびえ
ヤングヘルスプログラムチーム/
株式会社ファミリーマート/
株式会社東武宇都宮百貨店/
株式会社グリーンデイズ/株式
会社ハヤブサ/フロレスタ宇都宮
平成通り店/特定非営利活動
法人シェアハッピーエール/
宇都宮ヤクルト販売株式会社/
特定非営利活動法人フードバンク
うつつのみや

取組の概要

- ◆7年ほど前から大曾西町自治会のメンバーが集まり、地域のシニアの方の居場所として活動してきました。メンバーには自治会役員その他、地域の民生児童委員、保護司、福祉協力員のメンバーが参加しています。
- ◆活動を続ける中でコロナ禍で、3年間地域の子供会や育成会の活動が停止し、地域での子ども達の見守りが滞る中で、子どもの居場所を新たに立ち上げました。
- ◆地域の企業・団体から食品ロスとなる食品の寄贈を受けながら月2回の子どもの居場所と月1回の子ども食堂を運営しており、地域の様々な主体と協働し、お楽しみ行事や食育講座、フードパントリー等を実施しています。

取組の成果

- ◆子どもや保護者に食事や居場所の提供だけでなく、季節のイベントの体験機会を提供できました。
- ◆様々な年代の人がボランティアとして参加できました。
- ◆企業等から食品を受け入れることで、食料費を抑えつつ、継続的に活動でき、SDGsにも貢献することができました。



季節の行事(クリスマス)



食育講座

活動の展望

- ◆食品ロス受け入れを拡大し、安定的な食品確保を目指し、既存の活動を発展させつつ、こども宅食活動にも取り組んでいきます。学習支援活動にも今年度から取り組み出しており、この取組の充実も図っていきたいと思っています。

受賞のポイント

- ◆地域の様々な主体が協働し、地域の子どもに対する活動を行っている点が評価されました。



優秀賞

取組名: 誰ひとり孤立させないところを繋ぐ
「真ごころカード」活動

3 すべての人に健康と福祉を	11 住み続けられるまちづくりを
----------------	------------------

取組団体

栃木県立真岡北陵高等学校
生活福祉部/
社会福祉法人真岡市
社会福祉協議会

取組の概要

- ◆コロナ禍などで地域の繋がりや関係が希薄になりつつある今こそ、孤立させないところを繋ぐ活動がしたいと考え活動を始めました。
- ◆毎月季節を感じられる160枚のカードを真岡市社会福祉協議会の老人給食サービス事業を通して配布しています。

取組の成果

- ◆約3年間で6,000枚以上のカードを作成し、配布できました。
- ◆学校と地域との交流につながりました。



真ごころカードを渡す様子

活動の展望

- ◆継続的な活動とするため、放課後等デイサービスの子どもたちと一緒にカードを作成するなど、活動の幅を広げていきたいです。

受賞のポイント

- ◆生徒自身が地域の課題を解決するために考え、行動した点が評価されました。

取組名: 残された里山林を再生する
協働・連携による環境保全活動

11 住み続けられるまちづくりを	13 気候変動に具体的な対策を	15 陸の豊かさも守ろう
------------------	-----------------	--------------

取組団体

ふれあいの森伊勢崎

取組の概要

- ◆営農活動の変化により20数年間里山林が活用されなくなり、荒れてしまった状況を復元するため始めた事業です。
- ◆下草刈りや落ち葉さらい、倒木処理などの森林保全活動・育樹活動を行っています。
- ◆有志が散策路や車道等に捨てられているごみの収集などの環境美化活動を毎月1回実施しています。
- ◆地域住民や協力関係者との交流事業として、あじさい祭りや収穫祭なども行っています。

取組の成果

- ◆森林保全活動・育樹活動により地域の景観を保全できました。
- ◆交流会により、緑化活動に興味が無い人にも周知でき、活動の輪が広がりました。



保全活動後の写真

活動の展望

- ◆継続して活動しながら、周辺農地を含む地域資源の再生と未来へつなげる農村の発信拠点として活動が続けられるよう、活動内容の多様性を模索しながら計画、実施していきたいと考えています。

受賞のポイント

- ◆長期間に渡り地域の里山林を保全する活動を実施し、多様な主体との協力しながら活動している点が評価されました。